



審判部 & 広報部 コラボ企画



バレ美も興味津々♡

“荒木部長の”

～ やってみて！ワンポイントアドバイス！！～

第3回目『ボールがデッドになってからのルーティーン(主審編)』

今年度の9人制の重点指導項目で、主審について「ラリーの終了から次のサービス許可の吹笛までの間に、確認すべきことをルーティン化する」というものがあります。

審判講習会でも取り上げた内容ですが、ここでは主審だけではなく、副審、記録員についても触れたいと思います。まず今回は主審から。副審、記録員は次回取り上げます。

【主審】

1. (ボールがデッドになったら) **まず吹笛!**
2. (自分なりのジャッジを持ちつつ…) 関係する審判団 (副審や線審) とアイコンタクトでジャッジを確認
3. **判定のサイドを出す** (この時に点示の得点が入っていることも確認)
→該当するハンドシグナルを出す
4. レシーブ側のコート内の準備ができていないか→レシーブ側ベンチに動きがないか
5. 副審とアイコンタクト (次のサーバーのチェックが済んでいるはず)
6. サービス側のベンチに動きがないか→サービス側コート内の選手とサーバーがサーブを打つ準備ができていないか
7. **サービス許可の吹笛**

このような流れになります。これをラリーの完了から6～7秒で行います (努力目標)。

主審は審判台に上がると全ての責任を一人で背負ってしまいそうになりますが、**審判は「審判団」で行います。**

最終判定の責任は主審が負いますが、主審が見づらい箇所は副審や線審が見てくれるので、**プロトコール時によく打ち合わせをしてください。**

ボールがデッドになったら、上記 **1、3、7** を速くやろうとする方が多いですが、慌ててジャッジを出すのではなく、自分のジャッジを頭に置きつつ副審や線審とアイコンタクトをし、各々のジャッジを確認してからサイドとハンドシグナルを出します。

その後、すぐに次のサーバーを見るのではなく、レシーブ側のコートから上記の順に視線を移し、最後にサーバーを見てサービス許可の吹笛をします。

ベンチがタイムを要求しようとしていないか、選手交代の動きはないか、コート内の選手は準備できているか、サーバーはボールを所持しているかなど、競技場全体を見渡せるようになるよう今後も一緒に勉強していきましょう!